

トキ分散飼育検討対象地の取組の概要 ～ 石川県 ～

1. トキとの関わり

(1) 過去のトキの生息状況など

江戸時代初期の加賀藩史料にトキの生息の記録がある。

明治時代から乱獲や生息環境の悪化が進み、急速に生息数が減少。

昭和4年 眉丈山中でトキが誤殺され、能登半島でのトキの生存が確認。

昭和14年 眉丈山で17～18羽の群を確認。

昭和28年 特別天然記念物に指定（能登半島と佐渡島に生息）

昭和32年 輪島市洲衛のアカマツ林で繁殖確認（2羽巣立ち）。

昭和36年 穴水町七海のアカマツ林で繁殖確認（2羽巣立ち）。眉丈山で5羽確認。

昭和39年以降、トキ1羽となる。

昭和45年 国の指示により、本州最後のトキ「能里(ノリ)」を穴水町で捕獲。

佐渡トキ保護センターへ移送。

昭和46年 能里が死亡。

(参考) いしかわレッドデータブック (2000 石川県)

トキ：絶滅

【選定理由】

1970年1月8日、穴水町で最後の1羽が人工増殖のために捕獲され、県内では絶滅となった。

【県内での分布】

1950年代まで輪島市洲衛や穴水町七海付近の山林でごく少数が繁殖していたが、徐々に数を減らし、1961年が最後の繁殖成功となった。県内では季節的な移動がみられ、夏季には眉丈山付近に移動し、秋から春にかけては輪島市、穴水町へもどる群が見られた。

また積雪の多い時には餌場を求めて穴水湾沿岸に姿をあらわしていたようである。

【存続を脅かした原因】

銃猟による捕獲、生息地の開発、餌の農薬汚染

(2) トキ保護の取り組み

- ・戦後、能登におけるトキの生息・営巣・繁殖確認の報告が少なくなり、石川県は眉丈山での禁猟区再設定、輪島市洲衛地区での禁猟区設定などの規制を実施。
- ・昭和30年代 羽咋市、穴水町でトキ保護会（民間）や石川県トキ保護連絡協議会が結成。トキ保護に向けて組織化が進む。
- ・昭和40年代 山階芳麿博士や中西悟堂先生などの鳥類学者の生息地視察、文部省の調査等が行われ、官民が一体となってトキの保護を実施。
- ・平成元年 能登半島のトキ保護に長く関わった村本義雄氏が中国陝西省洋県のトキ保護のため資金支援活動等を開始（継続中）。
- ・平成13年 村本氏がNPO法人日本中国朱鷺保護協会を設立し、中国陝西省洋県等との交流・支援活動等を実施。
- ・平成16年 石川県職員が中国洋県でトキ保護の取り組み等を調査。
- ・平成16年以降 トキにゆかりのある県として、石川県はいしかわ動物園でトキ近縁種の飼育繁殖、県民への普及啓発（トキパネル展、トキツアー）などを展開

2. トキ保護増殖事業の検討

(1) 事業計画等の検討状況

- ・平成16年度 石川県庁内ワーキングの開催（継続中）
上野動物園、多摩動物公園よりアドバイザーを招聘（継続中）。
- ・平成17年度 トキ分散飼育受入条件基礎調査を実施（～平成18年度）。
- ・平成20年度 石川県トキ分散飼育受入検討会を設置し、石川県トキ保護増殖事業基本計画を策定。

(2) 事業の概要

①事業の目標

石川県は本州最後のトキの生息地であり、トキにゆかりの深い県として、分散飼育を受け入れ、我が国のトキの安定的な個体群の形成に貢献することを目標とする。

また、トキを通じて生物多様性の保全を考え、県民とともに自然と人との共生する石川を、守り伝えることを目指す。

②事業の場所・施設計画

○トキ飼育繁殖施設

○予定地：いしかわ動物園内

○施設計画

- ・トキ飼育繁殖拠点施設（飼育員室、ふ化・育雛等の機能。動物リハビリセンターを改修整備）
- ・第1ケージ（繁殖主体）（新設。310m²程度）
- ・第2ケージ（飼育主体）（新設。480m²程度）

※いずれも佐渡トキ保護センターを参考に設計予定。

・その他施設（設備）

監視モニター、フェンス、遮光・遮音壁、管理用道路等の移設・新設、植栽、ケージ周辺樹木の管理等

- ・動物病院、管理棟などの既存施設の機能を活用
（現在、動物リハビリセンターで行っている傷病鳥獣の救護は、動物病院エリアで対応）
- ・その他、希少鳥類保護増殖ケージ(H19 新設)、水鳥たちの池でトキ近縁種を飼育。

③事業の実施方法

- 管理運営：石川県（(財)石川県県民ふれあい公社が、県の委託を受けて実施）
- スタッフ：トキ飼育繁殖施設部門に獣医師、飼育員を配置
平成20年度より、いしかわ動物園の獣医師を増員し、技術習得等の諸準備を進めている。
- 緊急時対応体制：災害等の緊急時、県や地元自治体の協力を得て、トキ飼育個体群の保護と飼育管理体制の維持に努める。
- 支援協力体制：佐渡トキ保護センターや多摩動物公園等、国のトキ飼育繁殖の中核施設との密接な連携体制を構築し、指導、助言を得ながら適切な飼育管理を実施する。
- 鳥インフルエンザ等感染症対応体制
いしかわ動物園における「高病原性鳥インフルエンザ防疫マニュアル」を策定(H20年10月)し、職員に対する周知徹底を図り、適切な対応をとる。

3. トキ近縁種等の飼育・繁殖実績

(1) トキ近縁種飼育体制

- 飼育施設：いしかわ動物園内既存施設（水鳥たちの池、希少鳥類保護増殖ケージ）
- 飼育体制：いしかわ動物園の鳥类等飼育体制として飼育員3名程度、獣医師(兼務・平成20年度増員済み)

(2) 主な経過

- 平成16年度 近縁種のクロトキ6羽、ホオアカトキ6羽（平成16年11月に多摩動物公園から譲与）の飼育を、水鳥たちの池で開始
- 平成18年度 クロトキの人工繁殖に成功（多摩動物公園から譲与された卵からふ化・育雛6羽、巣立ち5羽）
- 平成19年度 クロトキの飼育下自然繁殖に成功（2個産卵、1羽が巣立ち）。
シロトキの人工繁殖に成功（多摩動物公園から譲与された卵からふ化・育雛・巣立ち2羽）
希少鳥類保護増殖ケージ（新設）で、ホオアカトキのペアを飼育開始
- 平成20年度 クロトキの飼育下自然繁殖に成功（2個産卵、1羽が巣立ち）
ホオアカトキの飼育下自然繁殖に成功（2個産卵、2羽が巣立ち）

(3) 近縁種飼育状況 計19羽

①水鳥たちの池（354㎡）

- ・クロトキ 10羽（24才♂1羽、14才♀1羽、4才♀1羽、2才♂4羽、2才♀1羽、1才♀1羽、0才1羽）
- ・ホオアカトキ 5羽（12才♂1羽、4才♂1羽、4才♀1羽、0才♂2羽）

②希少鳥類保護増殖ケージ（約 90 m²）

- ・シロトキ 2羽（1才♂1羽、1才♀1羽）
- ・ホオアカトキ 2羽（6才♂1羽、9才♀1羽）

（4）繁殖実績

- ・平成18年 クロトキ 人工ふ化6羽、巣立ち5羽
- ・平成19年 クロトキ 自然ふ化1羽、巣立ち1羽
シロトキ 人工ふ化2羽、巣立ち2羽
- ・平成20年 クロトキ 自然ふ化1羽、巣立ち1羽
ホオアカトキ 自然ふ化2羽、巣立ち2羽

4. トキ保護に関するNPO等の取組の状況

NPO法人 日本中国朱鷺保護協会（平成13年度設立、会員数181名）

能登半島と中国のトキ保護に尽力した村本義雄氏が中心となって設立。

能登半島でのトキの生態研究等の実績をもとに、中国のトキの増殖活動を支援。

トキ保護のための講演活動や、調査研究、朱鷺保護基金の募金活動、中国陝西省洋県のトキ救護飼養センター等との交流・支援を実施。

5. 地域住民等との関わりや波及効果

- ・トキのパネル展やトキツアー等を実施し、県民のトキへの関心・理解を拡大。
- ・トキの分散飼育の受入をめざした活動を通じ、種の保存や生物多様性保全に対する県民の関心・理解を拡大。

6. その他

（1）石川県におけるトキの生息や文化史等に関する調査

専門家の協力を得て、石川県におけるトキの生息や人との関わりの歴史等に関する調査を行い、今後のトキの保護管理等に資する資料を体系的に整理する。

（2）石川県産のトキの遺伝情報の解明

我が国に生息していたトキのうち、石川県産のトキについては、その遺伝情報が不明であることから、専門家の協力を得て、石川県産のトキの標本を対象に、DNA分析を実施し、遺伝子情報の実態を解明する。